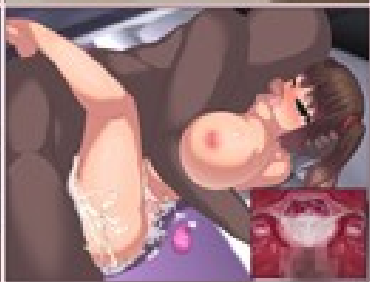


性欲にすぐ負けちゃう幼なじみ♀とホームシェア

はあ・・・後でこの匂い思い出してオナニーすりゆう・・・



「ちゃんと我慢できるし！」



「んっ。。。あっ！。。。あっ、ああぁぁ。。。んうっ！。。。」

あっ♡

んっ♡

んっ♡
んっ♡

んっ♡
んっ♡

「んっんっ」

「入るぞ」



「またスマホ見てオナニーしてるのか・・・おい」
「んう・・・ふあ・・・」

「おいってば」

んう・・・♡

ヒクヒク

ん

「・・・おん？」



「なっとなななに勝手に部屋にはいつてきてるのお!」
「ノックしたんだけど。。。」

子供の頃遊んでた歳の離れた近所の女の子

俺が就職して実家から離れてからは会ってなかったけど
彼女の進学と同時に俺の所に転がり込んできた

知ってる仲だし部屋も空いてたので、特に考えず受け入れたが
まさかこんな頻繁にオナニーする奴だったとは。。。
近隣住民の問題になったらアレなので
さすがに伝える事にした



「……ぞ、そんな声でかかったの？」

「うん」

「もしかして外にも聞こえてたり」

「ポルポル
ポルポル」

「ふふふ
ふふふ」

「大丈夫だと思いたいけど、そういう日もあったかも……」

「……（あああああああああああ！）」



「。。。いや、そんな事無いし!」
「恥ずかしいのは分かるけど実際声がだな」
「無いもん!無い無い!」

「。。。」

うん...
ごす

?

「よし分かった、証明するからこっちこい」

「えっ、しょうゆめら〜」



「ええと。。。なにされるの？」

「これから俺がいたずらする、もちろん我慢できるよな」
「うっ」

「さっきあれだけ言ったんだからそりやねえ」
「うう。。。」

いん。。。

「ようは声を出さなきゃ言いんだ、簡単だろ？」

「の。。。のぞむところよ」

「我慢できなかつたら何でも言う事聞けよ」

「えっ。。。う、うん！いいよー！」



「わんわん」

「ほら声出さない」
「うう。。。。」



「.....」





「こんなされたら。。。んう。。。でちやうよお。。。ひっく」

「な？結構大きな声出てただろ？」





「うっ。。。ほんとにするの？」

「何でもするって約束したろ」

「それはその。。。わ、わかったよお。。。」





「ふうすつきりした、舐め取って」
（これが精液。。。ドロドロだしすごくエッチな臭い。。。）

フム♡♡

フム♡♡♡

ん♡♡

「じゃあ明日もがんばろうな」
「……えっ！」

「ちゃんとお前が我慢できるまで面倒見るから安心しろ」
（そういえばこうなったのは私のせいなんだけ）
「う、うん、よろしくお願いします」



(気のせいとお兄ちゃんが近い……)

(昨日の事思い出しちゃったよ)



ムム

ん……

ム

ムム

ムム

ムム

ん。

(身体触りすぎな気がするけど、意識してるって思われたくないし)

(ああ、うずく、後でオナニー……ああしちやだめだった……どうしよう……)



(指が当たってる。。。もつと強く触って欲しいのに。。。)

(んむう。。。もつちゅと。。。ふあ。。。)



んむう

んむう。。。♡

んむう。。。♡

んむう

んむう

んむう

んむう

んむう

んむう

んむう

「あっ……」

(触るのやめちゃうの?)

「そういうば欲しかった本の発売日が今日だったわ」

「すまんが留守番頼んでいいか?」

「うん……うん? ああ、いよいよ留守番できる」

「そっかーすまんな」

(よかった、オナニーできる……)





玄関のドアが閉まる音がした
「……行ったのかな、今のうちに」

(あんな触られたらもう濡れちゃって……)
(……あっ……気持ちよくなってきた)

ガチャ
「ふえ？」



「やっぱり我慢できなかつたか」
「お、おにいちゃん！」



「これは罰が必要だな」

「なっなにするの!? 痛いことしないで!」
「痛くなきゃ罰にならんだろ、裂けないようにはしてやるよ」
「えっえっ、お尻に何塗ってるの、やだよだっ!」



「よし力抜けよ」
「なっになにを...」

www





「.....くはあ、やっぱ初アナルはすげえキツイな」

ん...

ん...

ん...

ん...

ん...

ん...

ん...





「これに懲りたらオナニー我慢しろよ？」

「ふあ。。ふあい。。。」
(今のを思い出して後でこっそりオナニーしよう。。。。)

はぁ〜♡
はぁ〜♡
はぁ〜♡

わい ぬい

お〜♡
お〜♡
お〜♡

お〜♡
お〜♡

お〜♡

お〜♡

「それで今日も特訓するの？」

「なんか言いように使われてる気がするんだけど」



「そんな事はないぞ、全てはお前のためだぞ」

「そうかなあ・・・」

「じゃあゆるん〜」



ん

シキシキ

し

し

「えっ、いや・・・するけど・・・」



「なっなんで途中でやめちゃうのおー！」

「我慢する練習だろ？」

「やだやだ最後までしてくれなきやだあー！」



「全く誰のための特訓だと思ってるんだ」

「今回だけだぞ」



「.....」





「もおゝ部活中だったのに」

「せっかく家に忘れてた弁当持ってきてやったのに
ひどいなあ」

「それについてはありがとうだけども……
すぐ終わらせてよ？」

「話が早くて助かるぞ」



（だってその……大きくなってるし……）

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

「じゃあ用事終わったし帰るな、部活がんばれよ」
「ふあ。。。ふあい。。。」



「今日は忘れ物なんてしてないでしょ？なんで来たの」

「いや暇だったから」

「。。。」

「うう、誰かにばれたら大変な事になっちゃうのに」

「それでも付き合ってくれるから好きだよ」

「も、もう。。。すぐ済ませてよね？」





う

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

ズ
ニ
ヒ
ト
...

♡♡♡♡♡

♡♡♡

♡

「ちよ。ちよつとお見ちゃん。誰か近づいてるみたい。」「静かにしていれば来ないさ」



(んんう。はやく。おわってえ。)

話し声は遠ざかっていった

「ほら来なかっただろ？」
「はあ。。。はあ。。。うう、

心臓にわるいよ。。。」

ガクガク

んんん

エキエキ

トクトク

ガクガク



今日はラブホテルに来た

「何でこんな所に・・・入り口ですっごいドキドキしたんだけど」
「ここなら我慢しなくていいだろ？」



(もう目的が変わってるもんなあ・・・まったくもう)

「あんっ、そんなと舐めないで」

「さっき一緒に風呂入って洗ったから大丈夫だろ」

「そういう事じゃなくて……うう」

ひゃっ!!



チュッ
チュッ
チュッ
……

ッ

チュッ
ドク





「そろそろ挿れるぞ、聞ってる？」



「聞こえてないな、まあいいか せーの・・・」





「ふう・・・すげえ出たわ、ところでさつき派手にイってたけど大丈夫か？」



「もっとおーもっとするのぉー」

「はらはら」

数時間後

「ゴム無くなっちゃったな。・・・生でしている？」

キキキ

ん.....

ん♡

ゴロメ



「えっ、うーん.....」

(すっごく気持ちよさそうだけど)

「ちゃんと外で出すから、な？」

「.....それなら」



(んあ・きたあ・生ちんぽきた・ああつ)

んあ

きたあ

んあ

んあ

んあ

んあ



(あっあっ・・・きもちい・・・)
(・・・あれ?)

あん♡
あん♡

ズッ

グッ

ズッ

グッ

(中で痙攣はじまつてる・・・もう出ちゃうんじゃないのかな)
「お、おにいちゃん?」

あれから数週間
場所はいつものラブホテル



「あっ……もう出さうなの……」

「はぁ・・・いっぱい出たね、えへへ」

「。。。」



「どしたの？」

「あの時に比べたら全然変わったなあって」

「そりゃ・・・いっぱいエッチしてもらったし、ね？」

「そういえば・・・我慢できなかったのは私よりお兄ちゃんだったわけだけど反省してるの？」

「うっ、はい、すみません・・・」

「あの時いっぱい中に出されちゃったし」

「はい・・・」

「そりゃ赤ちゃんもデキちゃうよ」

「はい・・・」

=3

「。。。えっ！」



「できないわけないよね？」

「どうして？」

「どうするも何も一緒に住んでたらデキちゃったって
実家に帰った時に言うしかないでしょ？」

「やっぱりそうだよな。。。」

「まあそれは後で考えてもう一回しようね？」

「ははは。。。はい」

禁欲なんてするもんじゃないな



おしまい























































































